

はまぼうふう vol.16 2005.8.26.

石狩浜海浜植物保護センター通信

エゾカワラナデシコの花に、キアゲハが訪れました。なかなか目にする事のない、優雅なシーンに、思わず必死にシャッターを押したのが右の写真。

キアゲハは、浜で最もよく見かけるアゲハチョウの仲間。なぜなら、砂浜にその食草があり、生活史を完結させることができるからです。食草はセリ科の植物。浜にあるセリ科といえば、ハマボウフウ。これが幼虫の食草です。

石狩浜でキアゲハをよく見かけるのは、河口にハマボウフウの群生地があるせいでしょうか？

オニユリの花にも！！

シャッターは切れなかったのですが、このキアゲハの前には、カラスアゲハが来ていました。カラスアゲハの幼虫はミカン科の植物を好みます。石狩浜周辺のミカン科の植物は・・・、海岸林のキハダ？ いや、もしかしたら、遠くの山地から浜へやってきたのかもしれませんが。

いずれにしても、食草になる植物や、蜜を吸う花がたくさんあるということは、虫の世界もにぎやかに、多様にしてくれます。

虫たちでにぎわう浜を、いつまでも残していきたいものですね。



エゾカワラナデシコを訪れたキアゲハ

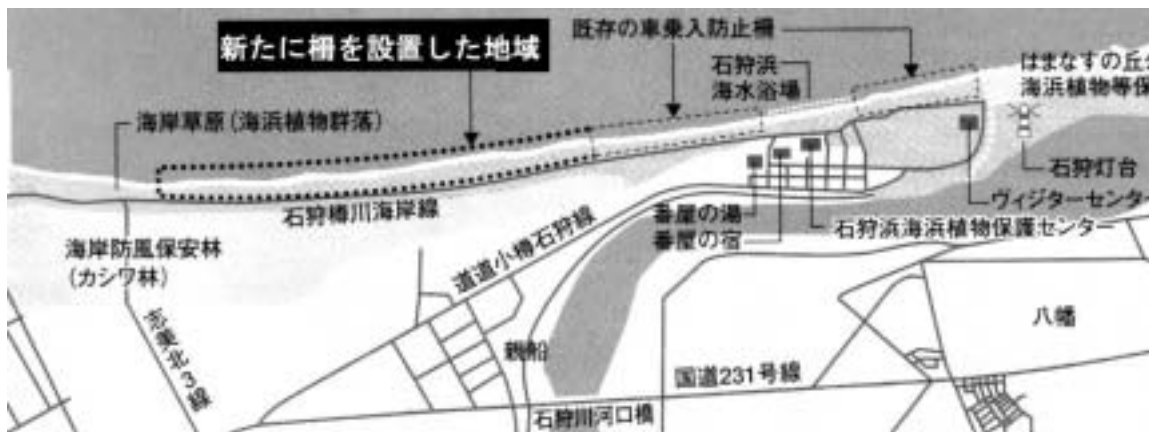


オニユリを訪れたキアゲハ

柵設置のお知らせ

長年、車（特に四輪駆動車）の乗り入れによる砂丘植生の破壊が問題になっていた東埠頭から海水浴場までの地域に、ほぼ全域に車乗り入れ防止柵を、設置することができました。

今後は、破壊された箇所への回復を進め、石狩浜全域で、海浜植物をふくめた砂丘生態系の保全を目指します。



この柵の設置は、石狩湾沿岸海岸保全基本計画(H15 北海道)に基づくものです。

活動の中から

地域交流「ハマボウフウ交流会」より

平成 13 年より、全国各地の活動団体と交流を深め、情報交換や互いの活動の活性につなげようという目的で、交流事業に取り組んでいます。

4 回目を迎えた今年は、6 月 28 日～29 日に、新潟県寺泊町に 8 団体(九十九里からはメッセージのみ)が集まり、新潟県の海浜植物の現状、および各地域の活動状況を報告しあいました。

新潟県の信濃川河口には、日本最大長の砂丘、新潟砂丘が連なります。北は、セナミスミレ(=イソスミレ)の名前の由来にもなっている瀬波海岸がある村上市から、南は新潟市南西端まで、信濃川河口をはさんで 80 kmにもわたる砂丘です。しかし、港湾や都市建設により、本来の砂丘の面影をたどるのは難しいようです。

残された砂浜海岸は、海浜植物の貴重な自生地なのです。しかし、残されてきた海浜植物の自生地も、今では減少の一途。

その原因は、海岸侵食、侵食防止のための護岸、砂浜への車の乗り入れ、がおもなもので、海浜への大型施設の建設、海岸への道路建設なども地域によってはあるそうです。

村上市のセナミスミレの自生地では、海岸侵食によってセナミスミレが消滅の一途をたどっていて、なんとか守ろうと、「セナミスミレを育む会」が移植と増殖活動に取り組んでいます。

新潟で海浜植物が置かれている危機的な状況は、他地域でも同様です。神奈川県湘南海岸でも、海岸侵食の問題に頭を抱えているということでした。海岸侵食は、海に砂が供給されないことが大きな原因のひとつと考えられています。海への砂を供給するのは、川。すなわち、川から砂が流れてこない、ということなのです。海辺の自然は、川と大きなかわりをもって成り立っている、そのバランスが全国各地で崩れているのだ、ということを感じました。

車の乗入れも、全国各地の海浜植物の生息地を脅かすものとなっているようです。海浜のビーチに車は不可欠なのか…。海辺の動植物へ向ける眼差しをつちかい、車の乗入れをなんとかなくしていきたいものです。

活動を重ねている宮城県の名取ハマボウフウの会や七ヶ浜ハマボウフウの会では、海浜植物を通じた環境学習の機会を提供するようになってきたとのことでした。

各地で繰り広げられている海浜植物保護活動で、子どもたちに海浜の自然を学ぶ場を提供できれば、少しずつでも、海辺の自然を思いやる心が広がっていくのではないのでしょうか。

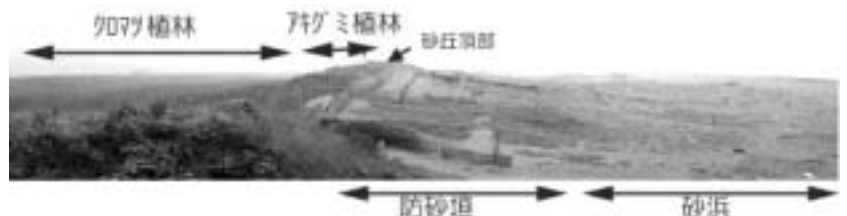
石狩での、市民と行政の協働した保護

活動は、各団体から目標とされ、身が引き締まる思いでした。このような場で、石狩の取り組みをどんどん知っていただき、海辺の自然の保護保全の輪が広がって行くことを願います。

集まった団体の活動場所



寺泊町の海岸の植生分布の様子



海から、汀線 - 砂浜(ケガハシ、コホウウミ) - 防砂堤(間にコホウウミやサビキウミが多い) - アサギミ植物 - 加賀ミ植物 - 民家・農地という带状分布。背後の民家、農地を飛砂から守るために、植林しているとのこと。

8月7日北海道大学地球環境研究科の東正剛先生におこしいただき、石狩浜のエゾアカヤマアリについて、屋内でのスライドと野外観察による講義をしていただきました。

これまで、「世界最大のコロニーとして、国際自然保護連合のレッドデータブックに掲載」ということで、石狩浜の貴重な自然要素の一つとして、観察会や印刷物等で紹介してきました。海岸草原を歩いていると、間違っただけで踏みつけ、たくさんのアリが足をよじ登ってきてかじられることもあり、浜で活動するみなさんの話題のひとつでもありました。

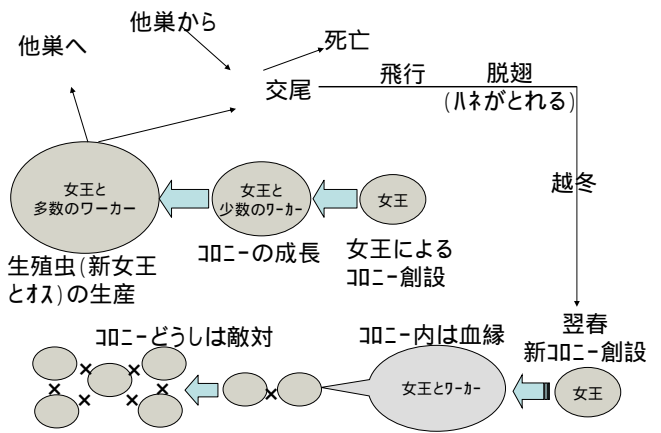
このアリの生態について、実は、疑問だらけでした。冬はどうしているの？ 巣は一年で終わるの？ エゾアカヤマアリは他にもたくさんいるのに、どうしてこの石狩浜に大コロニーができたの？ 1976年当時4万5千巣と言われた巣の数は、その後、減ってはいないの？ などなど。

東先生は、30数年前からこの石狩に通い、エゾアカヤマアリの調査に取り組み、今では国際的な共同研究までも手がける大研究者です。

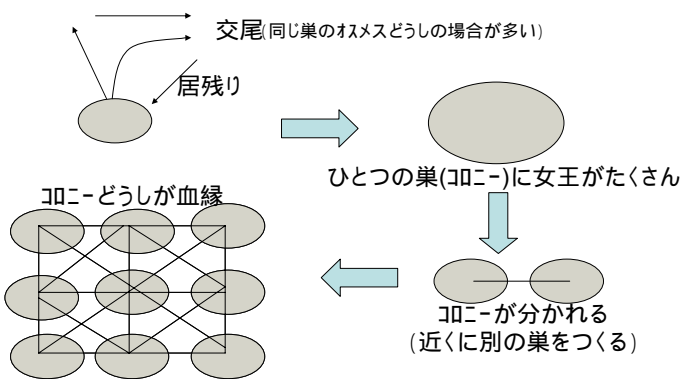
石狩浜のエゾアカヤマアリは何がすごいのか・・・。普通のアリは、巣ごとに敵対するのに（右図）、石狩浜のエゾアカヤマアリは、巣間を行き来し、銭函から石狩浜までの2.7km²の範囲に、4万5千の巣、3億の働き蜂がくらす、ひとつの大家族だったのです。

巣は、地下1m近くまで掘られるものと、地表面だけのものがあり、地下1m近くまであるものが、越冬巣として使われるようです。また、翌年も使われる巣もあれば、放棄される巣もあり、新しく作られるものもあります。ですので、見ていた巣が昨年、一昨年は使っていたのに、今年は使われていない・・・という状況もありうるのです。

基本的なアリの生活史



エゾアカヤマアリのスーパーコロニーのでき方

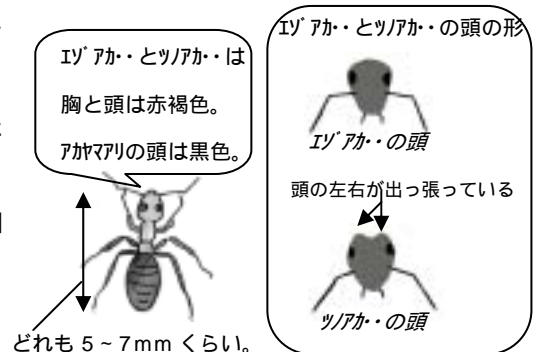


なぜ石狩に大コロニー？という疑問については、オスの結婚飛行時間（7月末～8月の昼頃）に、陸からの風が吹きやすく、飛翔力のあるものは、みな海へ飛ばされて死んでしまい、飛翔力のないものが残り、同じ巣の新女王と結婚することが多くなるからでは？と推測されていました。

しかし、石狩湾新港の建設により、大コロニーのあった海岸草原の広い範囲が掘削されて消失してしまいました。また、この30年くらいに間のレジャー利用、特に海岸草原への車の乗り入れによって、巣の数はさらに減ってしまったようだ、1976年当時の10分の1くらいでは・・・？と先生はおっしゃっていました。

類似のツノアカヤマアリとアカヤマアリについても紹介していただきました。ツノ・・・は、エゾアカヤマアリと形態も、巣の様子も似ています。これを観察会で、エゾアカヤマアリとして紹介してしまったことかもしれない・・・。

しかし、エゾアカヤマアリは、巣が集まっている(10m×10mの範囲に10数個の巣がある)が、ツノ・・・は、単独。もちろん、他の巣とは同種でも敵対。また、アカヤマアリは、クロヤマアリなどの他のアリの奴隷にするなど、まだまだ話題はあったのですが、とりあえず、今回はこれで。



2005.8.26.

活動報告

自然観察会

動植物定期観察

春 5月21日 参加者18名

ハマエンドウの花の咲き始める頃・・・、という設定でしたが、今年は、イソスミレの花が満開。ハマハタザオも咲き始めたところでした。

4月から月2回、開花植物と野鳥の観察記録を、ポランティアさんらと行っています。これまで9回、延べ名の方が参加。

初夏 6月11日 参加者21名

満開のハマナスを期待していましたが、今年は季節が遅く、ハマエンドウが満開！！ヒバリの巣を見つけたグループもありました！

石狩浜名無し沼調査

石狩斎場裏手には、30～40年ほど前に、砂採掘した後に水がたまってできた沼があります。ここに生育、生息する動植物を札幌市博物館活動センターの山崎さんに指導をお願いし、ポランティアさんらと調べています。6月～9月まで全7回のうち、4回終了。ヒツジグサやオモダカなどの水生植物、ヤゴやゲンゴロウの仲間、オマジヤクシやドジョウなどが確認されました。

夏 7月9日 参加者24名

石狩砂丘の海岸林～海岸草原～石狩川河口を巡りました。海岸林縁では、マムシトラノオやアキノウの花、海岸草原では、イソカラムシやコウゾリ、ハマヒナ、河口ではハマナスの群生を楽しみました。子どもたちの参加も多く、生き物をたくさん発見し、大喜びでした。



イトボウの仲間(アイトボウ?)がたくさん！

ハマナスの花

こども自然教室

6月25日 参加者21名

「自然の中の宝探し」や「砂浜の生き物探検」などゲームやクイズをしながら、石狩川河口の自然に親しみました。砂浜の生き物探しには、みんなが夢中になり、流木の下に虫やコトビを見つけて、砂浜の生き物のつながりについても学びました。

希少植物調査

石狩浜の自生する希少植物(レッドデータブック記載種以外にも、当地域で数が減っているもの)の生育状況を調査しています。マサキヤク、イソトドリ、イソスラソ、モセゴクなどの分布、個体数を確認しました。

活動予定

自然観察会

9月23日(金・祝) 9:30～15:00

石狩浜～厚田村無煙浜までをめぐり、石狩砂丘の成り立ちについて理解を深め、実りの秋を迎えた砂丘の自然を観察します。

集合：9:30 石狩市役所 対象：子ども～大人

定員：30名(9/10から先着順)

持ち物：筆記用具・飲み物・昼食・防寒着・雨具・お持ち

の方は双眼鏡・参加費100円(保険料として)

こども自然教室

10月1日(土) 9:00～14:30

浜の秋の実りや砂浜の漂着物を集めて、オリジナルの小物をつくったり、ゲームやクイズで動植物のことを学んだりして、石狩浜の自然に親しみます。

集合：10:00 海浜植物保護センター 対象：小学生(低学年は保護者同伴)

定員：30名(申込み多数の場合抽選) 申込み締切：9/21(水)

持ち物：昼食・飲み物・筆記用具・スパの袋・せんでいバ

サミ(持っている人)・軍手・参加費100円(同左)

行事・講座への参加申込・お問合せ、通信・刊行物に関するご意見、お問合せ等は、下記まで。

開館期間(4/29～11/3)：〒061-3372 石狩市弁天町48-1 tel.0133(60)6107 fax.0133(60)6146

開館時間 9時～17時 休館日：火曜日(祝日の場合その翌日)

冬期閉館期間(11/4～4/28)：〒061-3292 石狩市花川北6条1丁目30-2 石狩市役所内 tel.0133(72)3240

email. ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

HP：http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/kaihinsyokubutu/index.htm